

災害廃棄物の試験焼却 測定結果一覧（高岡市）

H25. 01. 25現在

測定対象・測定場所		測定項目	測定日 単位	試験焼却前		試験焼却中		試験焼却後			基準等	
				試験焼却 10日前 (12月5日実施)	災害廃棄物搬入時 (12月14日)	第1回目 (12月15日)	第2回目 (12月16日)	試験焼却終了 3日後※ (12月19日)	埋立時 (12月20日)	埋立後 (12月26日)		
焼却	木質系可燃物(災害廃棄物)		遮蔽線量率	マイクロシーベルト/h	—	コンテナ1 0.000 コンテナ2 0.000	—	—	—	—	0.01マイクロシーベルト/hを超えないこと 災害廃棄物を鉛の遮蔽体の中に入れて外部の放射線を遮断した上で、災害廃棄物自体からの放射線量率を測定 ※富山県が実施	
	災害廃棄物運搬車両(側面)		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	—	コンテナ1 0.07 コンテナ2 0.08	—	—	—	—	バックグラウンド(災害廃棄物運搬車両の無い状態)の空間放射線量率の3倍を超えないこと	
	バックグラウンド (災害廃棄物運搬車両用)		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	—	0.08	—	—	—	—	災害廃棄物運搬車両の無い状態での空間放射線量率	
	一般可燃ごみ		放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	—	—	—	
	環境クリーン工場 敷地境界(4方位)		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.07~0.10	—	0.06~0.09	0.06~0.09	0.08~0.11	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
	環境クリーン工場 内部(5地点)	①	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.06	—	0.06	0.07	0.08	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
		②	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.09	—	0.08	0.09	0.09	—	—	
		③	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.07	—	0.09	0.08	0.09	—	—	
		④	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.07	—	0.07	0.07	0.08	—	—	
		⑤	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.10	—	0.09	0.10	0.09	—	—	
	環境クリーン工場 周辺(4地点)	西海老坂地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.10	—	0.06~0.07	0.07~0.08	0.08~0.09	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	焼却前後の変化を確認
		二上地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.08~0.09	—	0.04~0.05	0.05~0.06	0.06~0.07	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	焼却前後の変化を確認
		横田本町地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.09~0.10	—	0.07~0.08	0.06~0.07	0.08~0.09	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	焼却前後の変化を確認
		佐加野地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.08~0.09	—	0.06~0.07	0.06~0.08	0.09	—	—	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	焼却前後の変化を確認
	焼却時の排ガス		放射能濃度	ベクレル/m ³ N	セシウム134 不検出(<0.2) セシウム137 不検出(<0.2)	—	セシウム134 不検出(<0.2) セシウム137 不検出(<0.2)	セシウム134 不検出(<0.2) セシウム137 不検出(<0.2)	セシウム134 不検出(<0.2) セシウム137 不検出(<0.2)	—	—	放射性セシウム134の濃度/20 + 放射性セシウム137の濃度/30 ≤ 1 ※同一人物が0歳児から70歳になるまでの間、当該濃度の放射性物質を含む空気を摂取したとしても、受ける放射線量が一般公衆の許容値(年間1ミリシーベルト以下となる濃度
	焼却灰(主灰)	放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	3ng-TEQ/g ※TEQ:最も毒性の強いダイオキシン量に換算した値	
		ダイオキシン類濃度	ng-TEQ/g	0.0052 (平成23年度測定データ)	—	0.017	0.012	0.018	—	—		
	飛灰(造粒灰)	放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 6	—	セシウム134 8 セシウム137 17	セシウム134 11 セシウム137 19	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 7	—	—	3ng-TEQ/g ※TEQ:最も毒性の強いダイオキシン量に換算した値	
		ダイオキシン類濃度	ng-TEQ/g	0.60 (平成23年度測定データ)	—	0.50	0.40	0.46	—	—		
	埋立処分する灰		放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 5	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 7	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	100ベクレル/kg を超えないこと
埋め立て	敷地境界(4方位)		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.09~0.11	—	—	—	0.07~0.09	0.07~0.08	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	
	不燃焼物処理場 (D地区 1地点)		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.10	—	—	—	0.06	0.07	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	
	不燃焼物処理場 周辺 (2地点)	国吉地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.07~0.08	—	—	—	—	0.05~0.06	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと	
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	埋立前後の変化を確認	
		西広谷地内	空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.08~0.09	—	—	—	—	—	0.05~0.07	バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと
			放射能濃度	ベクレル/kg	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	—	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<5) セシウム137 不検出(<5)	埋立前後の変化を確認
	放流水		放射能濃度	ベクレル/l	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	放射性セシウム134の濃度/60 + 放射性セシウム137の濃度/90 ≤ 1 ※同一人物が0歳児から70歳になるまでの間、当該濃度の放射性物質を含む水を摂取したとしても、受ける放射線量が一般公衆の許容値(年間1ミリシーベルト以下となる濃度	
	用水(農業利用)		放射能濃度	ベクレル/l	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	10ベクレル/l	
	地下水(井戸水)	江道地内	放射能濃度	ベクレル/l	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)		
		境地内	放射能濃度	ベクレル/l	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)	—	—	—	—	セシウム134 不検出(<1) セシウム137 不検出(<1)		
バックグラウンド	戸出町三丁目地内		空間放射線量率	マイクロシーベルト/h	0.11	—	0.09	0.08	0.09	0.09	—	

※試験焼却終了後、一般可燃ごみの焼却時に測定

放射能濃度の測定測定方法	平成23年12月 環境省作成の廃棄物関係ガイドライン(第5部 放射能濃度測定ガイドライン)による。 使用測定器 ゲルマニウム半導体検出器(キャンベラ社製 型式GC2520)
空間放射線量率の測定測定方法	平成23年12月 環境省作成の廃棄物関係ガイドライン(第5部 放射能濃度測定ガイドライン)による。 測定値 地上高さ1mで、指示値の安定を確認した後、5回測定した平均値(施設敷地境界・施設周辺については、1地点内に複数の測定箇所があるため、最小値と最大値を範囲で表示) 使用測定器 NaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータ検出器(日立アロカメディカル㈱製 型式TCS-172B)